

(振興局調整費)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金 ・直営	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務 企画部	飯塚 政範	地域 企画課	企画・県民 生活班	渡邊 裕美	0186-62- 1251	大館・北秋田地域 ラーメンマップラ リー事業	国道7号線沿線に多くラー メン店が出店しているこ とに着目し、ラーメンを のせたマップを作成、 シールラリーを開催する ことで冬期間の観光客の 減少に対応し、他地域か らの誘客を促進するツ ールとする。	1,341,662	直営	管内60店舗を掲載したラー メンマップを13,000部と 広告用チラシ10,000部 作成。 シールラリー(平成24年1 月10日～2月29日)プ レゼント抽選の実施。	県	地域住 民、管 外、県 外市 民	平成23年10月25日	地元紙やラジオなどメ ディアに広く取り上げ られ、プレゼント応募 総数も386名と予想を 上回る結果となった。 管内住民はもちろんの こと、管外、また少な いながらも県外からの 誘客にもある程度成 功し、注目度の高さを 実感することが出来た。 アンケートを通じて本 事業の継続やパワーア ップを望む声も多かつ た。	参加店舗から協賛金 等を募り、協議会等が 実施できる体制づく りが必要である。参 加者等から得た関心 を持続させるため にも、来年度も内容 を検討して実施する。
						平成23年10月 ～ 平成24年3月							平成24年11月5日		
総務 企画部	飯塚 政範	地域 企画課	企画・県民 生活班	佐藤 幸生	0186-62- 1251	100キロチャレ ンジマラソン参加 者に対する北秋田 地域アンケート実 施事業	県内外から集まった1 00キロチャレンジマ ラソン参加者に対し て、当地域の食事や 観光地等の印象につ いてアンケート調査 し、今後の地域活 性化の取組の参考と して役立てる。	155,315	直営	参加ランナー1,650 名に対してアンケート を実施(回答578名) 。アンケート協力者 に対するプレゼントの 実施。(抽選20名)	県	100kmマ ラソン参 加者	平成23年9月22日	大会参加のため、実 際に当地を訪れ、宿 泊、観光、食事、お 土産品の購入等をさ れた多くの方々の生 の声を寄せられてお り、当地の強みや弱 み等、今後取り組む べき地域活性化策の ヒントを得ることが できた。	本事業は今年度で終 了。アンケート回答 の分析結果や情報を 関係団体が共有し、 地域の観光振興に向 けた取り組みの参考 に活用していく。
						平成23年10月 ～ 平成24年1月							平成24年11月5日		
総務企画部	飯塚 政範	地域 企画課	観光推進・ 産業振興班	長崎 直樹	0186-62- 1251	震災に負けるな！ 大館・北秋宿泊施 設美味しい笑顔回 復事業	震災による自粛ム ード、風評被害等によ り東北地方各地の宿 泊施設は、キャンセル が相次いでおり当管 内でも例外ではない。 このような状況下で 、少しでも多くの宿 泊客を誘客し、お泊 まり頂いた方、お泊 めした宿泊施設双方 に笑顔が生まれる手 助けとなることを目 的として、1泊2食の 通常料金で提供する 料理に「比内地鶏と 地域の旬を利用した 料理」を加えて提供 して頂く。 1人前1,000円とし て、県が助成する	1,050,150	直営	平成23年7～9月 にかけて、管内の宿 泊施設28か所を対 象に事業を推進し、 963名の利用があ った。	県	宿泊事業 者	平成23年6月27日	比内地鶏は有名だが 高価であり、地元の方 でも気軽に食せない 食材であるため、宿 泊者からは大変喜ば れた。宿泊事業者か らは、料理は喜ばれ たがクーポンの使い 勝手に工夫が必要と の評価もあったが、 概ね感触は良かった。	震災対応費用のため 課題はなし
						平成23年7月9日 ～ 平成23年9月30日							平成24年11月5日		
大館 福祉 環境部	南園 智人	健康・予防 課	健康・予 防班	瑠澤 真澄	0186-52- 3952	職場におけるたば こ対策支援事業	喫煙は、メタボリッ クシンドロームと並 んで動脈硬化性疾患 のハイリスク要因で あり、禁煙によりがん をはじめ多くの疾患 を予防できる。	219,800	直営	職場でのたばこ対策 実態調査及び結果等 の情報提供、講演会 の開催、出前講座、 イベントでの啓発活 動	県	大館地域 事業場及 び地域住 民	平成23年5月26日	大館保健所管内では 受動喫煙対策を行っ ていない事業所が多 く、特に小規模事業 所が多いことが分か った。出前講座後、 建物内禁煙となっ た事業所があった。 講演会において参加 者からは、より多く の事業所へ聞かせたい との声が多かった。	受動喫煙対策を促す ため、関係機関と連 携した働きかけ、検 診を利用した喫煙者 を減らす活動など成 果が見える活動が必 要と考える。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年11月5日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
大館福祉環境部	南園 智人	健康・予防課	健康・予防班	工藤千鶴子	0186-52-3952	地域における心の健康づくり・自殺予防に関する普及啓発	平成22年度に作成したリーフレット「ふきのとうホットライン地域版」を増刷(一部改訂)して、関係機関や公共機関の窓口、自殺予防対策関係事業において配付し相談窓口の紹介、自殺予防啓発に役立てる。	304,000	直営	①「ふきのとうホットライン地域版」を18,000部増刷(大館保健所管内:13,500部、北秋田保健所管内:4,500部) ②自殺予防ネットワーク関係機関、公共施設の窓口へ配付。	県	地域住民	平成23年10月18日	①自殺予防ネットワーク関係機関、公共施設の窓口90カ所(大館保健所管内60カ所、北秋田保健所管内30カ所)へ17,000部配布し、相談窓口や専門機関の紹介に活用した。 ②専門研修や自殺予防啓発キャンペーンなどの関連事業の際に配布し、参加者や一般住民への周知や啓発に役立てることができた。	地域版リーフレットを活用し各関係機関が一体となって積極的に啓発活動を展開する。予防啓発、ハイリスク者の相談、専門機関への紹介など予防対策の強化へつなげる。
						平成24年11月5日									
鷹巣阿仁福祉環境部	石山 明	企画福祉課	調整・障害者班	鎌田 晴香	0186-62-1165	「ちびっこ雪祭り」in北欧の杜2012	冬期における親子での遊び場の確保と雪遊びの機会を提供し、親子間の交流を図ることで、子育てに喜びを感じてもらうとともに、子どもの健やかな成長と地域での子育てしやすい環境づくりを推進する。	417,245	直営	参加者数:約450名 【屋外イベント】雪像づくりコンテスト、チューブソリコース、雪のすべり台、たこ揚げ体験、スノーモービル、バナナボート体験 【屋外イベント】リメイクキャンドルづくり、人形劇団ククス公演、スープ提供 【協賛イベント】ガヤルダーハチふれあい会(平成24年3月1日のちの日キャンペーン)	県	小学校低学年までの子ども及びその家族	平成24年1月11日	雪像づくりやたこ揚げ体験などを通して、親子の交流に繋がった。また、北欧の杜公園が冬の遊び場として利用できることを、多くの親子に知ってもらい良い機会となった。当初200名程度の参加を見込んでいたが、実際には予想を上回る450名の参加があり、今回のイベント開催が地域に定着するイベント開催への大きな一歩となった。	当該イベントは参加者からの来年度以降の開催を要望する声が多数であったが、目標を超える参加状況を見ると、今後も振興局単独での開催には限界がある。しかし、地域のニーズを捉えたイベントのため、予算と人員の確保、集客の面でなど、市村や商工会、北欧の杜公園事務所や地域活動団体との連携を模索しながら実施形態を検討したい。
						平成24年2月18日									
農林部	鈴木 昌明	農業振興普及課	企画班	中田 直樹	0186-62-3950	”被災者支援は農作業を通じた生きがい創出から”事業	東日本大震災の影響で、北秋田地域振興局管内に避難してきた方々を対象に、北秋田地域の農業に触れる機会を提供し、地域・風土の理解、被災者同士の交流により、少しでも楽しい気持ちになってもらう。	611,600	直営	①平成23年9月18日にナシの収穫体験とそば打ち体験 ②平成23年10月15日にホウレンソウの収穫体験とお手軽菜園セットの実演 ③平成23年11月6日にリンゴの収穫体験ときりたんぼづくりを実施した。	県	東日本大震災の被災者	平成23年4月26日	事業完了後にアンケートを実施した。その結果、ほとんどの参加者から被災者同士の交流が出来たり、事業内容に満足したと回答があった。	①被災者の気持ちを考えた場合、いつ帰るかわからない状況で、市民農園などで野菜を作るとは難しいことがわかった。そのため、被災者が帰ることで野菜作りが出来なくなった場合の事を想定した対応が必要である。 ②農作業を行う場所の提供は近場に確保する必要がある。
						平成23年9月18日～平成23年11月6日									
農林部	鈴木 昌明	森づくり推進課	林業振興班	工藤 誠一	0186-62-1445	林業普及啓発事業	①本物の林業にふれて、林業に興味を持ってもらう機会を作る。 ②林業という職業に対する認識不足を解消する。 ③チェーンソー技術者を増やし、後継者候補を育成する。	357,250	直営	①平成23年10月15日に森林を元気にする間伐体験教室を実施した。 ②平成23年11月17日にチェーンソーアート講習会を実施した。	県	間伐に興味がある一般人、北鷹高校生	平成23年5月26日	①チェーンソー体験が初心者であっても専門的な実地研修により、安全な間伐作業が実施出来るまでに成長した。 ②若い世代にチェーンソーアートの魅力を体験してもらうことで、チェーンソー技術者の後継者候補を育成することが出来た。	チェーンソーを扱う作業は高度な技術が必要なため、思うように参加者を集めることが出来なかった。一方で、参加した人は十分に技術を取得できた。林業という産業に興味を持ってもらうためのより効果的な事業PRを展開することが今後の課題である。
						平成23年10月15日～平成23年11月17日									